

## 「まちの教室」について 永井多美子

港北ニュータウンは1983年（昭和58年）8月に入居が始まり今年8月でちょうど40周年になります。

わが家は当時、私と夫、小学3年、2年、幼稚園児の5人家族でした。子どもたちはしろつめ草がいっぱい咲いていたこの地域が気に入って引越しを決め、新住民として入居しました。

あれから40年、いろんなことがありましたが、何とんでも我が家は、地域で子どもを育てることができたと感じています。それは私が、「まちの教室」の活動に関わったことが大きかったといえます。

では、その「まちの教室」とはいったいどのような団体なのでしょうか。

今日のイベントのチラシにも書かれているように、1986年（昭和61年）住宅都市整備公団職員より紹介された劇団「風の子」上演のために集まった有志で立ち上げた文化グループです。

荏田南小学校は、1983年9月1日に児童数118名で荏田南小学校は開校しました。学級数は6（1学年1クラス）、先生は14名でした。小さな、小さな小学校が誕生しました。当時、周囲には一戸建ての住宅も少なく鮮やかなフラミンゴ色の校舎は街のあちこちから見ることができました。その翌年3月にPTAが設立し、学校と家庭、そして地域の結びつきが強くなっていきました。PTAの初代会長は今日の司会をして下さっている山田美千子さんです。

何もないこの地域で母親が協力して運動会の玉入れの紅白ボールを作ったこと、小学校の開校記念日にしいの木台ハイツの全戸に設置されているオープンを使って記念のクッキーを作ったことが思い出されます。荏田南に住む大人も子どもも仲良しになってほしい、特に子どもたちにはこの地域を自分達の故郷として思い出をたくさん作ってほしいと願いました。夏祭りやどんと焼きが地域の大切な行事として今も続いていることは嬉しいことです。

それから3年、1986年（昭和61年）の年が明けたころ、『ニュータウンで子どもたちのためにお芝居が上演されたらいいね』という囁きがこぼれ始めました。さらに山田さんに住宅都市整備公団の方から「劇団風の子」をPTAで呼んでみませんかという話がありました。でも、PTAですることは難しく、山田さんが近所に住んでいる人、数人に呼びかけたことがきっかけとなって活動が始まりました。とは言っても数十万はかかると思われる大事業を果たして素人の私たちの手でできるのだろうかと不安がいっぱいでした。”案ずるより産むがやすし”の思いで4月中旬『劇団風の子』の担当の方を囲んでお話をお聞きしました。

小さな子供を連れて都心の劇場にはなかなか行けないよね、子どもと一緒に父親も母親も感動したいね、私たちが行けないなら劇団に来てもらおう！！と声があがり、どこまでできるかはわからないけれども、とにかくニュータウンでの上演をやってみようということになりました。自分たちの見たいものを、自分たちの手で実現しようとなったのです。こうしてできたのが「港北ニュータウン まちの教室」です。「まちの教室」という名前は大学生が港北ニュータウンについて研究発表を行った時の名前をいただきました。